

平成 26 年度水産工学関係研究開発推進会議報告書

会議責任者	水産工学研究所長
-------	----------

1. 開催日時及び場所 日時：平成26年9月25日（木）13:30～17:00

場所：南青山会館 会議室

2. 出席者所属機関及び人数 14機関 32名

3. 結果の概要

議 題	結果の概要
<p>開会</p> <p>1. 報告事項</p> <p>1) 水産工学研究所の平成26年度研究・事業等の実施状況、研究開発のニーズ、および、具体的な取り組みについて</p> <p>2) 各機関・団体の平成26年度研究・事業等の実施状況について</p> <p>2. 協議事項</p> <p>1) 平成26年度研究成</p>	<p>寺脇業務推進部長により開会され、水産工学研究所渡部所長、水産総合研究センター和田理事および水産庁漁港漁場整備部岡整備課長の挨拶がなされた。</p> <p>業務推進部長より、平成26年度の本推進会議を構成する部会等について報告し確認された。</p> <p>各研究部・センター長より、本年度の中期計画の概要、実施課題の構成、主要な成果、担当する部会の計画案、ニーズおよび技術研修に関するアンケート結果等が報告された。</p> <p>業務推進部長より、水産試験場等からのニーズ等について、平成24年度からの対応状況および平成26年度の対応方針案、特に、静岡県からの洋上風力発電設置による魚群への影響、茨城県からのチョウセンハマグリおよびシラスの資源添加ならびに漁場形成機構に係る環境要因の解明等について、重点的に対応を検討している点が報告された。</p> <p>業務推進部長より、水産工学関係研究開発課題情報の概要が報告された。</p> <p>各機関・団体より、平成26年度研究・事業等の実施状況について報告がなされた。質疑・応答等を通じて、水産工学研究所が主に基礎的・先導的な領域（技術基準に必要なメカニズムの解明）を担い、確立された基準のマニュアル化・普及等を担う水産工学系関係各機関ならびに地方自治体との連携を強化して、水産工学研究の効率的推進を行うことが再認識された。</p> <p>担当部・センター長より、水産工学分野の平成26年度研究成果情報として、水産工学研究所から提案された5件について概要説明がなされた。協議を通して</p>

別記様式 2

<p>果情報について</p> <p>2) 「水産工学に係る研究開発の方向性」等について</p> <p>(1) 水産工学に係る研究開発の方向性について</p> <p>(2) 水産工学関係機関との連携強化について</p> <p>(3) トピックス</p> <p>3. その他</p> <p>閉会</p>	<p>、主に標題と内容の整合、成果の具体的な適用方策、また、平易な文章にし、様式に適合させた分かりやすい図表等へ修正するよう指摘を受けたが、研究成果としては承認された。</p> <p>漁業生産工学部から「水中ビデオカメラによるキンメダイ漁場の撮影」および「漁船漁業省エネ普及チーム（愛称；チームDr. 省エネ）」について、また、水産業システム研究センターから「海洋生物の遠隔的種判別技術の開発」について、トピックが紹介された。</p> <p>続いて、フリートーキングにて、報告事項から研究トピックス等までの情報に基づき、水産工学研究所が取り組んでいる、沿岸域における水産基盤の整備、漁業生産の向上に資する技術開発、さらに、生産から販路の開発までを通してのシステム化等について、工学研究に基づいた切り口での研究開発および各機関との連携強化について協議された。</p> <p>協議を通し、調査に対応した調査技術、すなわちどのような調査手法が最も適しているのか、適合性を分かり易く整理しまとめる必要性、技術開発を個別に深化させるとともに総合化を志向すること、漁船漁業における省エネ化に加えての漁具・漁法の選択性の改善を通しての資源管理への貢献、磯焼け対策を例にすると各市町村が個別に行っているのを、さらに面的に広がるように取り組む必要性和環境改善においては長期的に大規模に取り組むことの重要性、研究上のアプローチとして健全な天然海域と人工構造物を設置した海域との比較に基づく解析手法等を開発すること、さらに、省人・省力化技術に基づいた漁業経営全体における収益性の向上等を推進すること、等に関する協議がなされた。</p> <p>今回の協議において出された情報・意見等を踏まえながら、各部会との密な連携の下、行政部局および関係機関・団体との連携を更に強化することとした。</p> <p>特になし。</p> <p>業務推進部長により閉会された。</p>
---	--

## 平成26年度水産工学関係研究開発推進会議 出席者名簿

平成 26年 9月 25日(木) 於：南青山会館 会議室

所 属	職 名	氏 名
水産庁漁港漁場整備部	整備課長	岡 貞行
水産庁増殖推進部	研究指導課海洋技術室長	平石 一夫
水産庁増殖推進部	研究指導課研究管理官	森 賢
全国水産試験場長会	特別幹事	工藤 真弘
地方独立行政法人北海道立総合研究機構 水産研究本部中央水産試験場	主査(施設工学)	金田 友紀
茨城県水産試験場	研究調整監	八角 直道
千葉県水産総合研究センター	センター長	塩野 健
日本水産工学会	会長	大竹 臣哉
独) 農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所	水利工学研究領域長	中 達雄
独) 土木研究所 寒地土木研究所	水産土木チーム上席研究員	三上 信雄
独) 土木研究所 寒地土木研究所	水産土木チーム研究員	三森 繁昭
独) 土木研究所 寒地土木研究所	水産土木チーム研究員	大橋 正臣
一社) 海洋水産システム協会	研究開発部部長代理	酒井 拓宏
一財) 漁港漁場漁村総合研究所	理事長	影山 智将
一財) 漁港漁場漁村総合研究所	第一調査研究部長	中村 克彦
一財) 漁港漁場漁村総合研究所	次長	大村 浩之
一社) 漁港漁場新技術研究会	会長	橋本 牧
一社) 水産土木建設技術センター	理事長	鹿田 正一
一社) マリノフォーラム21	技監	白石 学
独) 水産総合研究センター	理事	和田 時夫
独) 水産総合研究センター経営企画部	経営企画室長	近藤 喜清
独) 水産総合研究センター研究推進部	研究主幹	中島 員洋
独) 水産総合研究センター水産工学研究所	所 長	渡部 俊広
独) 水産総合研究センター水産工学研究所	業務推進部長	寺脇 利信
独) 水産総合研究センター水産工学研究所	特任部長	明田 定満
独) 水産総合研究センター水産工学研究所	水産土木工学部長	中山 哲巖
独) 水産総合研究センター水産工学研究所	漁業生産工学部長	東 照雄
独) 水産総合研究センター水産工学研究所	水産業システム研究センター長	上野 康弘
独) 水産総合研究センター水産工学研究所	業務管理課長	日向 眞矢
独) 水産総合研究センター水産工学研究所	業務推進課長	野口 昌之
独) 水産総合研究センター水産工学研究所	業務推進課企画調整係長	栗原 亮
独) 水産総合研究センター水産工学研究所	業務推進課情報係長	白土 康俊